

30. 「離れていても心は繋がっている」

2010年3月1日 社会福祉法人 江刺保育園

離れていても私たちは家族との繋がりをいつも感じています。この感覚はあまり意識してはいませんが、子どもたちは何時でも感じています。私たち親も同様に感じています。保育園に子どもを預けて仕事をしているとき、今何をしているのだろうか？今日は楽しく過ごしているのだろうか？そんなことが時折心の中で思い起こすことがあると思いますが、それが繋がっている証拠です。子どもたちも、お母さん、お父さんが元気でお仕事をしているのだろうか？今日はどんなお話をしてくれるのだろうか？夕方になったらいつ頃迎えに来てくれるだろうか、等、お母さんやお父さんの笑顔や優しさをいつも心の中に感じています。そしてお母さん、お父さんの「大丈夫だよ」という優しい声がいつも自分に語りかけているのです。ですから私たち家族は「離れていても心は繋がっている」のです。

家族の、笑顔や優しさの中で日常の生活を営んでいる子どもたちは、離れていても安心して過ごすことができます。家族は絶対に自分を守っていてくれる、大切にしてくれているという信頼感を持っているからです。保育園や幼稚園に入園したての時、誰も知らない人の中で子どもたちは大きな不安の中を持ちます。「自分の家族は自分を守ってくれているはずだ。」という思いを抱きながら4月から5月を過ごしています。しかし、心は繋がっていることを生まれてから体感しているため、子どもたちのこの不安感は徐々に消え、さらに強い信頼感が生まれてきます。そして、はじめて子どもたちは家族を離れ、外の世界に積極的に踏み出そうという意欲が出てきます。

信頼感には目には見えません。言葉でこれが信頼感だと具体的に説明できるものでもありません。この信頼感には食事の用意、オムツの取り換え、朝の挨拶、抱っこ、病気した時の親たちの心配等、生活の中での小さな積み重ねによって自然に形成されるものだと思います。その中で交わされる会話、笑顔や優しさが、大きな信頼感の基になっています。



それが目に見えない不思議な力になり「離れていても心は繋がっている」という

思いを持つことができます。これが子どもたちの成長を支えています。そしてお互いに家族としての強い絆が出来上がるのだと思います。

《チーズじゃが餅》

材料(4人分)

ジャガイモ 160g、片栗粉 20g、
パセリ(刻んでおく)適量、
マーガリン 小さじ1
食塩 小さじ5、チーズ 20g

作り方

- ① ジャガイモの皮をむき小さく切り茹でる。柔らかくなったら湯切りをしてつぶす。片栗粉、パセリ、マーガリン、チーズ、食塩を入れてよく混ぜる。
- ② 小判型に形をつくり、両面を焼く。薄っすらきつね色に焦げ目ができれば美味しく出来上がりです。

フライパン、オーブントースターで焼くことができます。

